

令和 4 年度 家庭学習の手引き

【第 1 学年】

杉並区立東原中学校

	内容
国語	<p>〈予習〉授業前にノート・ワークシートを見返して、前回までの範囲で疑問や知らない言葉が残っていないか確認しましょう。</p> <p>〈復習〉その日のうちにノート・ワークシートを見返して、授業中に出てきた疑問や知らない言葉を必ず調べましょう。また、ワークを解いて内容を確認しましょう。わからなかったところは先生や周りの仲間に聞いて解決すること。</p> <p>〈日頃〉テレビ・SNS・動画サイトなど様々な媒体から言葉に触れましょう。自分の知らない言葉や表現が出てきたらすぐに調べる習慣をつけましょう。</p>
数学	<p>〈予習〉授業前休み時間の数分で構いません。今日の授業でどこのページをやるのか。特に太字になっているキーワードに目を通しておくと、授業中の理解度が深まります。もちろん家庭学習で予習をしても構いません。</p> <p>〈復習〉家庭学習の中心は復習の時間に充てましょう。</p> <p>① 当日夜までに授業で解いた問題を<u>自力</u>で解く。</p> <p>② 週末までに 1 週間の授業箇所の問題集を<u>自力</u>で解く。(問題集には直接書かない)</p> <p>③ 試験前(2,3 週間前)に試験範囲内の教科書の問題, 問題集を<u>自力</u>で解き直す。(問題集に直接書く)</p> <p>自力とは、問題の解き始めから解き終わりまで何も見ずに解き切るということ。自力で解けなかった問題(全く手がつけられなかった or ノートを見たらわかった or 解説を少し見たら解けた or 答えが違った etc)はそれぞれ異なる印をつけ、自力で解けるまで解き直しを行うこと。解説を見ても良いが、「読んで終わり」「写して終わり」は NG!</p> <p>また、理解度を一番深める方法は、「人に教える」ということです。「解けるけど、教えられない。」という人は理解度が低い証拠です。自分の言葉で説明することを意識しながら、日頃の勉強に励みましょう。</p>
英語	<p>〈予習〉授業前に前回の内容を確認すると良いです。授業は前回の復習から始まります。</p> <p>〈復習〉自主学習ノートを活用して、その日に学習した内容をまとめる。単語はくり返し取り組むことが大切です。</p> <p>すでに授業で学習した範囲を音読する。デジタル教科書を使用して正しい音声を確認しましょう。</p>
社会	<p>〈日頃〉本・新聞・テレビ・タブレット等を活用し、興味を持ったことがらについて関連する教科書・資料集などを見てみましょう。それを授業プリント等に入書すると更によい。※すべての情報において、正しい情報か否かを意識して活用しましょう。</p> <p>資料集は教科書よりも更に詳しい内容がまとめられているので活用しましょう。</p> <p>〈予習〉次に習う所の教科書を一読して確認し、自分が分かりにくいところを事前に把握しましょう。</p> <p>〈復習〉毎時間配布する授業プリントを、まず一度見直しましょう。分からなかった事はそのままにせず自分で調べ、質問し、解決しましょう。</p>
理科	<p>〈予習〉実験・観察プリントを活用し、実験・観察の予想をたて見通しをもって実習に取り組めるようにする。</p> <p>※教科書等で重要用語、法則等について確認しておく、見通しを立てやすい。</p> <p>〈日頃〉AI 型学習ドリル「navima」を活用した復習を行い、基礎的・基本的事項の定着をはかる。</p> <p>「よくわかる理科の学習」(Workbook)の学習ノートやデジタル教材「マナビリア」を活用し、単元ごとの復習を進める。</p> <p>〈定期考査前〉定期考査の範囲の Workbook を解き直す。実験・観察プリントを見直す。</p> <p>〈定期考査後〉間違えた問題について解き直し、間違えた理由を含め振り返る。</p>

令和 4 年度 家庭学習の手引き

【第 2 学年】

杉並区立東原中学校

	内容
国語	<p>〈予習〉教科書の文章を読んで、漢字の読み方や語句の意味を確認しましょう。ワークの漢字や語句の部分を活用しましょう。</p> <p>〈復習〉ワークの問題を解いて内容を確認しましょう。漢字は送りがなをつけて書いたり、熟語で書いたりして覚えましょう。読解問題も漢字もくり返して練習することが大切です。</p> <p>〈日頃〉本や新聞を読んで、さまざまな文章に触れましょう。読んだあとにどんな内容だったか要点をまとめたり、自分の考えを書いたりして読みを深めていくとよいでしょう。</p>
数学	<p>〈予習〉授業前休み時間の数分で構いません。今日の授業でどのページをやるのか。特に太字になっているキーワードに目を通しておくと、授業中の理解度が深まります。もちろん家庭学習で予習をしても構いません。</p> <p>〈復習〉家庭学習の中心は復習の時間に充てましょう。</p> <p>① 当日夜までに授業で解いた問題を<u>自力</u>で解く。</p> <p>② 週末までに 1 週間の授業箇所の問題集を<u>自力</u>で解く。(問題集には直接書かない)</p> <p>③ 試験前(2,3 週間前)に試験範囲内の教科書の問題、問題集を<u>自力</u>で解き直す。(問題集に直接書く)</p> <p>自力とは、問題の解き始めから解き終わりまで何も見ずに解き切るということ。自力で解けなかった問題(全く手がつけられなかった or ノートを見たらわかった or 解説を少し見たら解けた or 答えが違った etc)はそれぞれ異なる印をつけ、自力で解けるまで解き直しを行うこと。解説を見ても良いが、「読んで終わり」「写して終わり」は NG!</p> <p>また、理解度を一番深める方法は、「人に教える」ということです。「解けるけど、教えられない。」という人は理解度が低い証拠です。自分の言葉で説明することを意識しながら、日頃の勉強に励みましょう。</p>
英語	<p>〈予習〉特になし。</p> <p>〈復習〉復習ノートを活用して、その日習ったことを中心に自分でまとめてみよう。また、Joyful work の問題で既習の文法事項を確認しましょう。</p> <p>〈日頃〉すでに授業で学習した教科書の範囲を音読しましょう(暗記できるまでが理想)。発音や抑揚にまでこだわるといいです。</p>
社会	<p>〈日頃〉本・新聞・テレビ・タブレット等を活用し、興味を持ったことがらについて関連する教科書・資料集などを見てみましょう。それを授業プリント等に入力すると更によい。※すべての情報において、正しい情報か否かを意識して活用しましょう。</p> <p>資料集は教科書よりも更に詳しい内容がまとめられているので活用しましょう。</p> <p>〈予習〉次に習う所の教科書を一読して確認し、自分が分かりにくいところを事前に把握しましょう。</p> <p>〈復習〉毎時間配布する授業プリントを、まず一度見直しましょう。分からなかった事はそのままにせず自分で調べ、質問し、解決しましょう。</p>
理科	<p>〈予習〉実験・観察プリントを活用し、実験・観察の予想をたて見通しをもって実習に取り組めるようにする。</p> <p>※教科書等で重要用語、法則等について確認しておく、見通しを立てやすい。</p> <p>〈日頃〉AI 型学習ドリル「navima」を活用した復習を行い、基礎的・基本的事項の定着をはかる。</p> <p>「よくわかる理科の学習」(Workbook)の学習ノートやデジタル教材「マナビリア」を活用し、単元ごとの復習を進める。</p> <p>〈定期考査前〉定期考査の範囲の Workbook を解き直す。実験・観察プリントを見直す。</p> <p>〈定期考査後〉間違えた問題について解き直し、間違えた理由を含め振り返る。</p>

令和 4 年度 家庭学習の手引き

【第 3 学年】

杉並区立東原中学校

	内容
国 語	<p>〈予習〉教科書を読んで、漢字や語句の意味を確認して起きましょう。また、授業前までにノート・ワークシートを見返して、前回までの範囲で、疑問や知らない言葉が残っていないか確認しましょう。</p> <p>〈復習〉その日のうちにノート・ワークシートを見返して、授業中に出てきた疑問や知らない言葉を必ず調べましょう。ワークの問題を解いて、内容を確認しましょう。読解問題も漢字もくり返して練習することが大切です。</p> <p>〈日頃〉テレビ・SNS・動画サイトなど様々な媒体から言葉に触れましょう。自分の知らない言葉や表現が出てきたらすぐに調べる習慣をつけましょう。また、本や新聞を読んで、内容の要点をまとめたり、自分の考えを書いたり、話したりしてみましょう。</p>
数 学	<p>〈予習〉授業前休み時間の数分で構いません。今日の授業でどこのページをやるのか。特に太字になっているキーワードに目を通しておくと、授業中の理解度が深まります。もちろん家庭学習で予習をしても構いません。「授業中に初めてそのページを開いた」は NG！</p> <p>〈復習〉家庭学習の中心は復習の時間に充てましょう。理解度を深めるために最も必要なことです。</p> <p>① 当日夜までに授業、塾で習った、解いた問題を<u>自力</u>で解き直す。</p> <p>② 週末までに 1 週間の授業、塾の問題集を<u>自力</u>で解く。</p> <p>③ 試験前(2,3 週間前)に試験範囲内の教科書の問題、問題集を<u>自力</u>で解き直す。</p> <p>自力とは、問題の解き始めから解き終わりまで何も見ずに解き切るということ。自力で解けなかった問題(全く手がつけれなかった or ノートを見たらわかった or 解説を少し見たら解けた or 答えが違った etc)はそれぞれ異なる印をつけ、自力で解けるまで解き直しを行うこと。解説を見ても良いが、「読んで終わり」「写して終わり」は NG！</p> <p>また、理解度を一番深める方法は、「人に教える」ということです。「解けるけど、教えられない。」という人は理解度が低い証拠です。自分の言葉で説明することを意識しながら、日頃の勉強に励みましょう。</p>
英 語	<p>〈予習〉特に必要ありません。授業中に集中して、「読む・聞く・書く・話す」にしっかり取り組んでください。</p> <p>〈復習〉授業内容を思い出しながら、その日のうちにワークシートを見直せると良いですね。</p> <p>〈日頃〉タブレット内デジタル教科書または QR コードで単語や教科書本文の音声聞き、ネイティブになりきって真似して発音・音読。同時並行でこれに書く作業を加えれば記憶の定着度は格段に上がります。字は英語も日本語も数字も形を整えて筆記する癖をつけておきましょう。</p>
社 会	<p>〈日頃〉本・新聞・テレビ・タブレット等を活用し、興味を持ったことがらについて関連する教科書・資料集などを見てみましょう。それを授業プリント等に入書すると更によい。※すべての情報において、正しい情報か否かを意識して活用しましょう。</p> <p>資料集は教科書よりも更に詳しい内容がまとめられているので活用しましょう。</p> <p>〈予習〉次に習う所の教科書を一読して確認し、自分が分かりにくいところを事前に把握しましょう。</p> <p>〈復習〉毎時間配布する授業プリントを、まず一度見直しましょう。分からなかった事はそのままにせず自分で調べ、質問し、解決しましょう。</p>
理 科	<p>〈予習〉なし(ただし、学習中の内容に関連するニュースや新聞記事、読書はオススメ)</p> <p>〈復習〉①授業内容をノートで確認。理解する。 ②関連する問題を解いて理解の度合いを確認。</p> <p>③ミスの原因を確認。 ④○×にかかわらず、解答解説を熟読する。(類似する問題にも対応できるように)</p> <p>※受験対策として、「総復習問題集」をやる。そして重要なのは上記③④を常に心がけること。</p>